



大川陽康新副理事長

大川学長 副理事長に就任

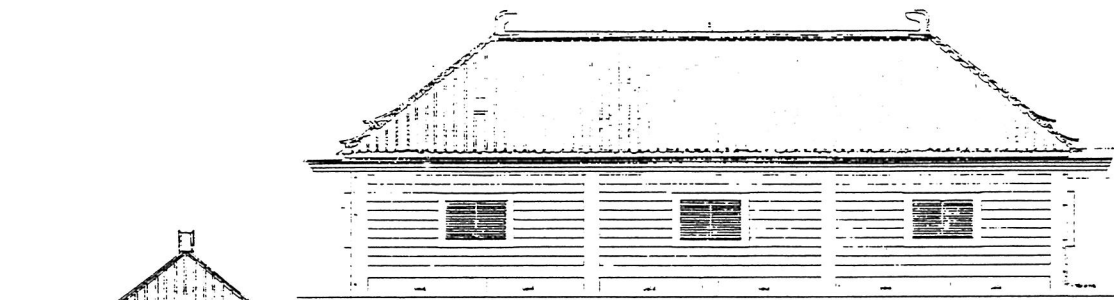
大川陽康本学学長が十月二十六日付で、学校法人東工学園の副理事長に任命された。

去る十月十一日資料室新築工事の地鎮祭が執り行われた。当日はあいにくの雨となつたが、法人より窪田理事長、事務部長、東京工業高校より坂教授による設計図。なお、施工は元東京工業高等学校後援会会長占部猪之助氏のニシケン建設(株)である。

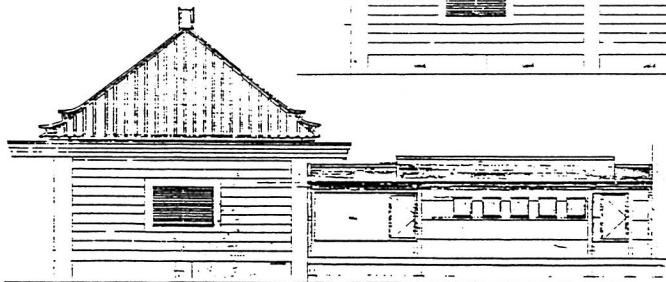
地鎮祭行われる いよいよ着工 資料室新築工事



発行所
日本工業大学
広報課
〒345 埼玉県南埼玉郡
宮代町学園台4-1
☎ 0480(34)4111



北立面図



西立面図

生まれ変わった食堂

……夏季休暇中に大改装……

日本工業大学サービスセンター(株)は昭和四十二年六月に設立され、それ以後約二十年間にわたり、食堂を中心に学生生活へのサービスを行ってきたが、今回夏季休暇を利用して、厨房設備を含めた食堂の全面改装が行われた。過去に部分的な改装はあったものの、これほど大規模なものは今回が初めてである。

今回の改装は、食堂が単に食事の場としてだけでなく、学生生活における憩いの中心としての機能を果たす場にと、大川学長の基本的考えに立ったもので、こうした考え方に全面的な賛同を寄せた後援会、および、大学側、日本工業大学サービスセンター(株)の三者による協力のもとに行われたものである。

本大改装も含め、サービスセンターの改善に関しては、後援会、学生側代表、大学側担当者、日本工業大学サービスセンター(株)の四者からなるサービスセンター連絡協議会が組織され、四月から数回の協議を重ね、それぞれの意見を採り入れ、活かされるようにとの配慮がなされた。

今回の具体的な改正点は、熱いものは熱く、冷たいものは冷たくの考え方のもとに、食材等の厳選から始めて、手作り感の強いメニューへの見直しが行われた。その結果、以前に比べると、より快適により美味しいものが食べられるようになるはずである。価格については、消費税を含み三〇円～五〇円のアップとなったが、それに見合うサービスが、今後サービスセンター連絡協議会等の場で、様々な意見を十二分に聴きながら、徐々に整備される予定である。

☆☆☆☆



第3回日本工業大学 建築設計競技 入選者決定

東工学園創立八十周年および日本工業大学創立二十周年を機に設定された建築設計競技も、本年度は「職住一致の併用住宅の設計」のテーマのもとに、全国より一七五点の応募があった。

清家清・宮坂修吉・村口昌之三本学建築学科教授による審査の結果、入選者は以下の通りと決定した。入選者の出身高等学校が定着しつつあるというのが、審査後の印象と

佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作
大分県立大分工業高等学校	高橋比呂志	大阪府立西野田工業高等学校	中尾 信也	三重県立四日市工業高等学校	黒山 長久
静岡県立島田工業高等学校	山賀 理彩	群馬県立前橋工業高等学校	原田 祐一	〇木田 道雄	昭和一学園高等学校
東京工業高等学校	小原 健	昭和一学園高等学校	早川 和男	〇藤原 孝幸	東京都立田無工業高等学校
大分県立鶴崎工業高等学校	中尾 一貴	学校	高知県立高知工業高等学校	西岡 伸一	群馬県立館林商工高等学校
石塚 昭	石塚 昭	石塚 昭	石塚 昭	石塚 昭	石塚 昭

人事異動

任用(十月一日付)

近藤通朗(こんどう・みちろう) 昭和三十一年十月一日生。昭和五十五年三月佐賀大学理学部数学科卒業。昭和六十六年三月立教大学理学研究科博士後期課程終了。理学博士(立教大学)。



システム工学科 講師
近藤通朗(こんどう・みちろう)

工学部 入学試験日程

募集人員	機械工学科 200名	建築学科 200名
	電気電子工学科 200名	システム工学科 120名

大学院工学研究科 募集要項	
修士課程	
募集人員	機械工学専攻…8名 電気工学専攻…8名 建築学専攻…8名
出願期間	2月21日～3月1日
試験日	3月7日
合格発表	3月12日
博士課程(後期)	
募集人員	機械工学専攻…2名 電気工学専攻…2名 建築学専攻…2名
出願期間	2月21日～3月1日
試験日	3月7日
合格発表	3月12日

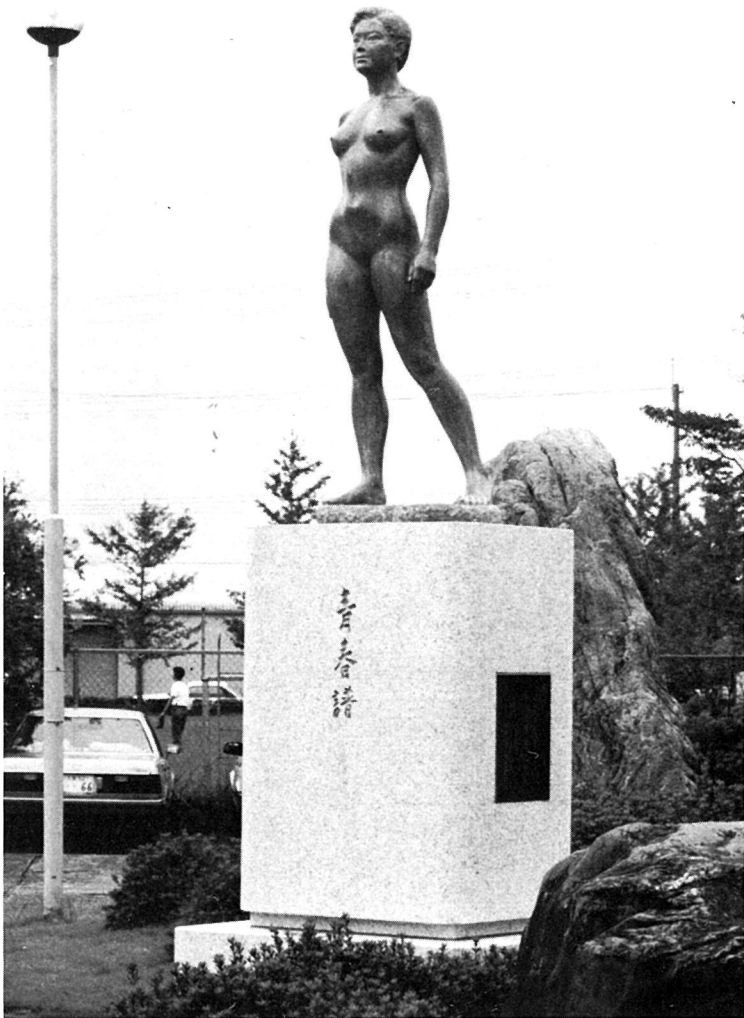
推薦入学		一般入学	
出願期間	10月30日～11月10日	出願期間	1月10日～2月9日
試験日		試験日	2月12日:機械工学科・電気電子工学科 2月13日:建築学科・システム工学科
合格発表	11月21日	合格発表	2月21日
入学手続	第1回 12月9日 第2回 1月31日	入学手続	2月28日
選考方法	書類審査	試験科目	A方式 数学—数学I・代数・幾何・基礎解析・微分・積分・確率・統計(「統計的な推測」に関する部分は除く) 理科—物理(理科Iの物理の関連分野を含む) 外国語—英語I・英語II・英語II B・英語II C B方式 数学—数学I・工業数理 専門—各志望学科関係科目 外国語—英語I・英語II
出願資格	本学が指定する工業高校(高校の工業科)の現役で、成績概評がB以上の者。志願学科と同系統の工業科を履修していること。なお、システム工学科を志望する場合は、この限りではない。 注:出願書類等は、高校の進路指導室へ送付されます。	A方式/B方式のいずれかを選択し、受験することができる。	

寄贈された

日本芸術院賞受賞作品

青春譜

小森和夫氏製作の「青春譜」は、東京工業高等学校の卒業生である海老原久寿氏により、この度本学に寄贈され、その除幕式が九月二十二日に行われた。これは、大川学長が海老原氏所蔵の小森氏の諸作のうち、青春譜は、小森氏の諸作品の中でも、とりわけ代表作と呼ぶにふさわしいもので、この作品により昭和五十九年日本芸術院賞を受賞している。今回、この芸術の香り高い作品が、本学体育館前の噴水横に置かれることで、体育館前広場が学生生活における安らぎの場となることが期待される。



左・海老原氏、右・小森氏、中央・大川学長

第三回ミニSSL大会

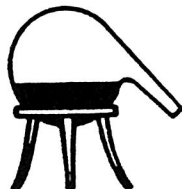
開催される

学校法人東工学園主催のミニSSL大会が、本年も九月十五日から十七日の三日間にわたり、本学を会場に開催された。毎回、多くのミニSSLを愛好する人達や子供たちが賑わうこの大会も、今年で三回目

平成元年度

学内特別研究

- ☆多様体の平均曲率 船橋昭一
- ☆2原子分子の励起状態の寿命の精密測定 清島達郎
- ☆溶融溶接における溶融池の物性とアーク溶滴移行、溶け込み現象の関連に関する研究 石崎敬三
- ☆風力タービンシステムに関する研究(特に新しい制御について) 町山忠弘
- ☆翼端間隙計測法の研究 松本正勝
- ☆可変ターボ過給機の開発 セラミックスの低温焼結 中道一郎
- ☆コヒーレント光通信系における干渉雑音の研究 山口義昭
- ☆超音速と流速の相関性に関する研究 谷沢 茂
- ☆衝撃的過荷重による鋼筋の破損に関する実験的研究 難波恒夫
- ☆コーシエネレーションシステム計画に関する基礎的研究 病院・ホテル建築への適用性について 榎井武一
- ☆鉛直荷重を受ける摩擦抵抗の研究 沈下挙動 桑原文夫
- ☆歴史的な集落景観を支える技法に関する研究 伊藤藤一
- ☆集落空間計画に関する基礎的研究(その4)高齢化社会における集落の実態について 高橋久雄
- ☆都市政策からみた江戸の町家の復原的研究 波多野純
- ☆電子写真画像とシステム評価 榎田 昇
- ☆被覆工具の開発に関する研究 杉本安次郎
- ☆マシニングセンタによる放電加工の研究 鈴木 清
- ☆CNCホブ盤による新しい歯切り方法の研究 長田重慶
- ☆バイナリタービンシステムに関する実験 町山忠弘
- ☆コイル材切削による金属繊維製造法の開発 柳沢 章
- ☆アークと溶け込み形状 横谷真一郎
- ☆光弾性画像解析装置の開発 梅崎栄作
- ☆総形舞ツールによる創成歯切法の研究 伏見恒夫
- ☆歯面の接触状態に関する研究 有賀幸則
- ☆Pd-Agアークのガス相移行境界に関する研究 高橋篤夫
- ☆システム構造分析支援エキスパートシステムの開発 松田郁夫
- ☆空気用電磁弁の開閉による磁気特性の変化について 堀田勝喜
- ☆空調用ダクト内の汚染調査 小竿真一郎
- ☆多機能電子材料の開発研究 中村洋一
- ☆CAI入力提示方式の人間工学的研究 片山茂友
- ☆パソコンによるギリシャ語自動検索・索引システムの開発 丹羽次郎
- ☆半導体薄膜デバイスの開発とその評価—ラマン分光によるヘトリ成長の歪の評価— 鈴木敏正
- ☆鉄骨造接合部の耐震性能に関する研究 北後 寿



第17回ヨーロッパ研修

本物芸術の醍醐味

団長 寺尾 裕

旅行の目的は、人によってさまざまであるが、今回の旅行において、私は、ヨーロッパ芸術を直に見聞する事というのが大きな目的の一つであった。とは言っても、多くの人は、建築物や絵画面だが、私の場合特に音楽方面に興味があった。そこで、オペラ・コンサート・ウィーンには入っていないが、この機会に是非訪れたい場所の一つであったウィーンの国立歌劇場に、多少強引にはあったが十数名の学生を引き連れて行った。

ウィーン国立歌劇場と言えば、毎日違ったレパートリーがあると云われるくらいに演出数で、毎シーズン、平均、オペラ五〇本、バレエ二〇本計三百回の公演を行なっているという。

日曜日、夜であり、行き当たりばったりの当日券なので席がとれるかどうか心配した



パリにて

が、幸運にも、二〇シリング(約二〇〇円)の上手側ボックス席内の二列目とれた。(ちなみに、正面で最高の席は一八〇シリング、立見席は九〇シリングであった)時間があれば、きちんと正装していきかけたが、オペラ・コンサート・ウィーンは森観光の後で、ラフな格好だった。席によつては意外に低料金で、本物が楽しめる。但し、服装によつて、案内人の態度は露骨に変わるようである。午後七時開演だったが、十五分前くらいには席に着いた。見回してみると、ここでも日本人が大変多く、建物の内部は、日本のそれに較べて立体的で、上から見おろすという感じである。なにしろ、地上から天井まで四五mというから驚きである。大きな天井は、すばらしい絵柄が描かれており、ボックス席は、カーテンがかり個室風に造られていて、大変落ち着いた感じ。しんと静まり返った中、フルメンバーが入ると思われるくらいに広いオーケストラボックスに、演奏者が入ってくる。音合わせをする。コンサート独特の、何とも言えない期待と興奮が、そこにはある。拍手と共に入場したコンサート・オペラと言え、華やかな舞台の出し物が多いが、この日は、ベートーベン作曲の歌劇「フェディリオ」を上演していた。どちらかと言うと、暗い内容で、服装も地味であり、曲も堅いが、音響効果が優れており、やはり、生の演奏は、すばらしい。そして、

これに勝るオペラハウスはないと言われるゆえは、舞台装置が、大道具に比べて大がかりな事にあらう。物の本によれば、本舞台、奥舞台、わき舞台とあり、六つに分かれた舞台は、水平、垂直方向への移動が自在で、上下に十三m以上も行き来するようである。外観の建物から受けたあのとてもない大きな印象は、そういう事だったのかと改めて思い知らされた。

興奮もさめやらぬうちに、約二時間の上演が終わり、出てくると、後から来たはずの学生と出会った。その学生によれば、幕間に、案内の人にチップを渡して、いい席に入れたもったことだ。うまくやるもんだと、感心したり、呆れた。

こうして、研修九日のウィーンは、充実・満足のうちに終わった。

バルセロナでは、地下に入りこんでいる形の店で、全員で会食をした。宴たけなわのこの辺りの流しと思われる三人組がやってきて、我々が日本人だとわかると、世界は二人のためにを歌ってくれた。嬉しくなって、「コンドルは飛んでゆく」とか、「ラ・マラゲニア」などを注文し、スペインの一夜を楽しんだ。

ミュンヘンでは、広いフロアのピヤホールに行ったが

十数時間飛行機に揺られ、霧の都ロンドンに着いたのは朝六時過ぎだったであらう。訳の分からないまま入国審査を終え、一路ホテルに向った。ロンドンは、予想以上に肌寒かったのを覚えている。

私にとって、異国を旅するのは初めての体験であり、何れもが新鮮に映った。最初の国が英語圏であったので安

我々日本人を見つけると、軍艦マーチが始まった。学生のひとりが指揮棒を振り回し、周りの人達からも拍手を浴びたりして、相当盛り上がった。

研修十一日目、バスでロンドンチック街を行く途中、村の小さな教会に立ち寄った。外側からは想像もできない程内装が美しく、偶然にもその中で、パイオルガンによるアベ・マリアの演奏を聞く事ができた。厳かな音の調べが我々を敬虔な気持ちにさせてくれた。

百年祭で華やかに色どられたパリでは、研修最後の夜をシャンソンで飾った。モンマルトルの丘を少し下った穴ぐら風の、詰めこんでせいでい三十人くらいしか入れない所であった。新しい曲のように、詩の内容がわからないのが残念ではあったが、掛け合いの曲などもあり、シャンソンの雰囲気を楽しむ事ができた。全行程を通じて、オペラ・コンサート・ウィーンにもすべて参加し、かなり、忙しかったが、自分の希望していた場所も訪れる事ができ、本当に幸せに思っている。

この様な意義ある研修において、貴重な体験ができる機会を与えて下さった大学に対し、深く感謝申し上げる次第であります。

(教養科助教授)

異国の文化にふれて

大学院修士課程
機械工学専攻一年 篠崎 賢次

心した。と言いたい所だが、霧の都ロンドンに着いたのは朝六時過ぎだったであらう。訳の分からないまま入国審査を終え、一路ホテルに向った。ロンドンは、予想以上に肌寒かったのを覚えている。

私にとって、異国を旅するのは初めての体験であり、何れもが新鮮に映った。最初の国が英語圏であったので安

少あったが、ヨーロッパは日本に比べれば何倍も広いし、歴史も古い。その中にいくつもの国が共存しているのだからどこかで一つにまとまっているような気がした。それがキリスト教であるかは、判断しかねる所である。

また、どの国を訪れても、数百年前の建物が大切に残されており、それがまた現代に程よく違和感なしに共存しているのである。歴史が古いだけに、壊れかけた建物もあるのだが町全体が一つになって修復工事を行っている。観光客としてみれば少しガッカリしたが、これから先何百年も残す事を考えれば、素晴らしい事であるし、ヨーロッパの人々の気質もうかがえる。

この研修中は、色々な事があった。団体ではあるものの、オペラ・コンサート・ウィーンなど、自由行動で来た日本とはまるで違う世界だった。十八日間で九都市を巡るため、急ぎ足の所も多

今回の旅行の目的は、ヨーロッパの文化に直接触れてみることでしたが、建築を専攻している私にとって、興味深かったのはやはり建築物であり、街並みでした。

ロンドンでは自由行動の際、一日ロンドン市内や公園を友達と二人で歩き回り、スペインのバルセロナでは、屋敷にカタルーニヤ地方独特の料理、パエリアを全員で食べ、カタルーニヤ風ゴシックの代表的な建築を見学することができました。中でも目を引いたのは、建築家アントニオ・ガウディの代表作の一つとも言えるサグラーダ・ファミリア(聖家族教会)でした。高校時代からこの建物を見たいと思っていた私にとって、現実目の前にして見る事ができた時の感動はひとしおでした。

イタリアではポンペイの遺跡を見学し、残っている紀元前の街並みから当時の生活を、ファインダー越しに想像しました。

オーストリアのウィーンは雨ばかり降っていました。特に印象に残っているのはウィーンのシンボルともいえるシェンブルグの森、夕暮れ時にテファン大寺院で、夕暮れ時にカタルーニヤを行く時、見上げるほどの大天井、その間のステンドグラスから注ぐ淡い光、パイオルガンの音と礼拝をする人々、その光景は静謐でまさに神秘的なもので、感動を覚えずにはいられません。

ミュンヘンではBMW博物館やドイツ博物館を見学、ブッセンでディズニー城の原形となったノイシュヴァイン・シュタイン城を訪ねました。城の横の道を登り城を見下ろしたときの風景は、目に焼きついて今でも忘れられません。



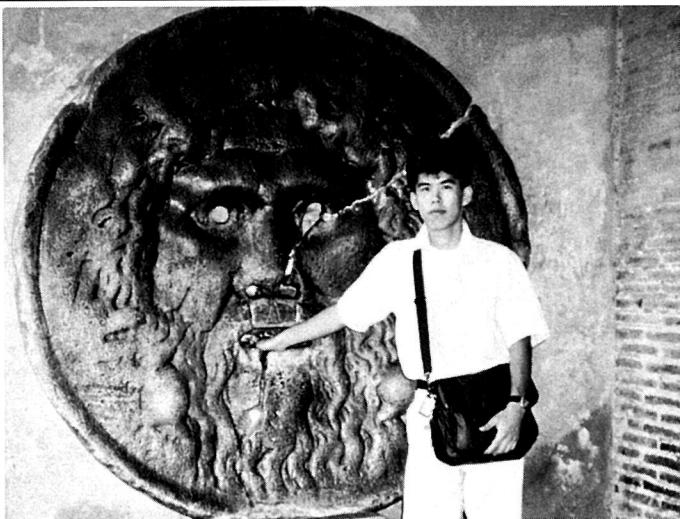
ノイシュバイン・シュタイン城を背景に

一人歩きが多かった事もあり、私自身、直にヨーロッパの文化にふれる事ができたのは、とても貴重な経験であり、日本を外から見ることができた。これから先、生きてゆく上で、この旅で学んだ事がきっとと生きてくると思う。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学や、諸先生方に対して、心から感謝の意を表します。

☆☆☆

ローマで



素晴らしかった ヨーロッパ体験

建築学科三年 佐藤 成紀

最後の目的地的パリでは、会食を開き、食べ放題の店へ行き、飲みや歌えの大騒ぎで楽しい一時でした。夜にはセーヌ川の遊覧船に乗って船上から見える夜の街並みに酔い知れました。橋のうえの人々が私達の乗っている船に向かって手を振って来た姿も、印象に残っています。パリ最後の夜はシャンゼリゼ通りをひとりで歩き、今回旅行の締め括りとしました。

この研修旅行では、多くのことを学びました。異国の文化やその文化に触れることができた、また写真でしか見られなかった風景や建物を、実際に自分の目で見ることもできました。また、日本という国を外側から、客観的に見る事ができたような気がします。

短い期間ではありましたが、とても貴重な体験ができました。

と生きてくると思う。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学や、諸先生方に対して、心から感謝の意を表します。

☆☆☆

特別英語研修引率記

団 長 新 妻 弘

八月一日の朝は台風の影響でどしゃぶりであった。この雨のため電車も遅れがでて学生が集合時間に間に合うかどうか心配した。行きのノースウェスト航空の機内では早くもあたる学生は隣のアメリカ人の子供に英語で盛んにトライしてこれからのカナダ語学研修に対する意欲を充分に見せていた。私はといえば、折角の機会だからとホームステイを希望したのだがかなえられずがっかりしていた。

バンクーバー空港の税関で最初のトラブルがあった。我々一行はそこでどうしたわけか二つに分かれて、JTBの添乗員の高橋さんは先に通過して出てしまいいくは後に残されてしまった。事情が良く解らず並ばされて一人一人何か聞かれていた。

高橋さんが戻ってきて説明してくれて外に出られたが、その説明によって、はからずも世界の事情の一端をかいま見るようになった。というのは、今までカナダは比較的積極的に移民政権を押し進めてきたが、ここに来て東南アジア(特にホンコン)からの不法滞在者が急増しているのが原因で、何処にいつまで滞在するかをはっきり言わないと入国審査でひっかかってしまうというところらしい。学生のホームステイ先が何処になるかはこの時点では未だわかっていなかった。この時の学生の不安に満ちた表情は今でも忘れなかつたのかも知れない。

次の日、ELI(English Language Institute)の建物の一部屋でELIのスタッフによるウェルカムパーティーがあった。コーディネーターのReena BakerさんとLorieさん等の挨拶があ

った。そのあと簡単な試験を受けて学生は二つのクラスに分けられ、各クラスに一人の先生がついた。各クラスに名前がつけられて、LionsというクラスはAnnetteさん、PandasというクラスはDeeさんという女性の先生がそれぞれ担当することになった。語学研修の内容は月曜日から金曜まで、午前中は九時から十時二十分まで授業、二十分のコヒーブレイクのあと十時四十分から十二時まで授業、午後はフィールドトリップと呼ばれるものがあつた。これは、ELIのアシスタントであるPatti AyukawaさんとSleeve Plante君の二人が公園やダウンタウンに学生を連れて行き英語で説明してくれるものである。結果的にはPattiさんが殆どであつた。

八月三日から普通の授業にはいった。私も少し授業を参観したが、学生の方はすぐに先生になれて楽しくやっていた。これなら、これからさきも十分やっていけるだろうと不安も無くなつていった。さらに、その日の夕方、ドミトリーの一階で係の人からホームステイのオリエンテーションがあつた。そのあと二人(或は二人)ずつ各家庭に連れていかれるのであるが、研修引率の歴代の先生方が書かれてい

るように、その時の学生の不安に満ちた表情は今でも忘れられない。次の日、私がJonsのクラスの方に連絡に行くとグッ・モーニングと元気のよい声が一斉に飛び出してきてその不安を吹き飛ばしてくれた。

十三日はブリティッシュコロンビア州の祝日なので、十一日(出)、十二日(出)、十三日(出)の二泊三日で、カルガリーのホテルに泊りバンフへ行った。バンフのサルファーマウンテンも美しかったが、カルガリーで食べたアルバータ牛の味は忘れられない。学生達も三〇〇グラムから四〇〇グラムぐらいのステーキをペロリとた

らけていた。二十一日は、フェアウェルセレモニーがアジアセンターと呼ばれる建物の中で行われた。アクティング・デレクターのLyn Howesさんも出席して学生達は彼女から修了証を一人ずつ受け取った。その日はやはり学生達もブレザーや背広をめいめいに着ていたのでELIのスタッフは日本のビジネスマンのようだと言っていた。学生の代表と私に代わつて大久保さんがお礼のスピーチをした。その日は皆でダウンタウンのホテルに泊り次の日はロサンジェルスに移動した。

ロサンジェルスの印象はあまりない。ただかつての教

え子である学生達と一緒にIndieyさんに会った。二十七日に成田に着くときは行きと同じ台風の影響でやはりどしゃぶりであつた。おまけに帰国ラッシュで身動き

できないほどだつた。そんななかで出発してこうして帰ってくるまでに一人の軽い風邪をひいた学生と私がドミトリーでワインとチーズを盗まれたことが最大の事故であつたことを感謝した。



記念写真

視野が広がった
カナダでの体験

大学院修士課程
建築学専攻一年 野口 健

この度の研修は、私の大学在学中の夢であつた海外ホームステイというものがあつた。研修となりまして、とりあえず、私の感じたカナダという国を伝えられればと思ひます。

私の行った所は、カナダのバンクーバーという太平洋側の都市で、山あり海ありで広大な所です。

ところで、カナダは移民の国なので、イギリス人・フランス人・中国人と現住民のインディアン、そして他にもいろいろな国からの人々がいます。もちろんその中には日本

人も含まれています。そして、多民族の国なので、アメリカのように治安は良くないと思ひていましたが、比較的安全な国で、夜遅く街を歩いていても大丈夫なくらいです。

街並は、ダウンタウンと呼ばれる高層ビル群、そして年代を感じさせる石造りの建物や石畳の道路のあるギヤスタウン、中国人の生活の中心のチャイナタウンなどがあり、世界の文化が入り乱れ残されています。

食べ物、肉中心ですが、海に面しているためか、豊富な魚介類があります。値段は程度で売られ、また嫌煙ブー

日本よりかなり安いと思ひます。また、酒類なども安く、ビールやウィスキーなどは、日本の半値ぐらいで買えます。しかし、タバコは日本の三倍程度で売られ、また嫌煙ブー



バンフで

日は半額になるシステムもあり、人々が利用するのは当然です。それに道も広く、ほとんど渋滞などありません。そう考えると日本のバスは料金が高く、時間はかかり、かなりの違いがあります。また、高速道路もフリーウェイと呼ばれるだけあって、料金など払う必要はなく、開通したのである程度理解できました。日本という国は、国で建設しながら有料というのは外国人から見れば、変なことには違ひありません。

ガンリも安いことから、郊外の家では、車をほとんど持っています。また、持っているだけでは生活ができません。次に私がお世話になつたファミリーは、四人家族で夫と妻と四才と二才の子供という構成でした。私にはとても親切にしてくれました。休日には、ピクニックなどに連れてい

てくれ、親類など二〇名ぐらいからか、タバコを吸う人はあまりいません。私が見たところ、喫煙者は日本人が大半を占めていたと思います。

交通の手段は、路線バスが町と町とを結んでいます。料金約一六〇円程度で九〇分間は、乗り換え自由ととても安く、ラッシュ以外と土・日曜

ムからか、タバコを吸う人はあまりいません。私が見たところ、喫煙者は日本人が大半を占めていたと思います。

英語の授業を受けた。内容はほとんど実用的なもので、教室の外に出ればすぐに使えるというものはかなり多かった。先生やホストファミリーとの会話は、手がゆっくり話してくれるのでなんとなく意味は通じるといった感じだつた。しかし理解できずに何度も聞き直したことも多かった。あの時ほど英語をもっと勉強しておけばよかったと強く思ったことは

い集まり、とても楽しいものです。休日の過ごし方などは、のんびりと過ごしたことなく私はなかつたので、心をリフレッシュするには最高だと思います。

やはり一番の問題は、会話ということになりますが、相手の話を理解することは、ゆっくりしゃべってくれたりするのである程度理解できました。が、話す方が、発音が悪かったり、単語を知らなかったり、四苦八苦しました。けれども何度も返して使っているうちに覚えてくるものです。あとは勇気を持つてチャレンジすることでしょう。

最後に、この研修で、日本と世界との違い、日本の良さ、また、日本人というのを見ることができ、そこで考えることができた。それが視野がかなり広がつたと思ひます。またチャンスがあれば、もう一度カナダへ訪れてみたいものです。

とといったカナダの国民性がうかがえる。

また、週末を利用して行ったカナディアンロッキーは、とても美しく、雄大な自然を満喫することができた。

このようにして、三週間はあつたという間に過ぎてしまった。ホストファミリーのみなさんには、私の下手な英語に

に対して寛大に接していただき心より感謝している。

その後、一週間のロサンジェルス観光に行った。ディズニールランド、ハリウッド、ビバリーヒルズなどいろいろと見てまわつたり、実弾射撃にも挑戦した。しかし、ロサンジェルスはバンクーバーと比べ、街や人々の雰囲気がいかに異なり何か物足りなさを感じた。

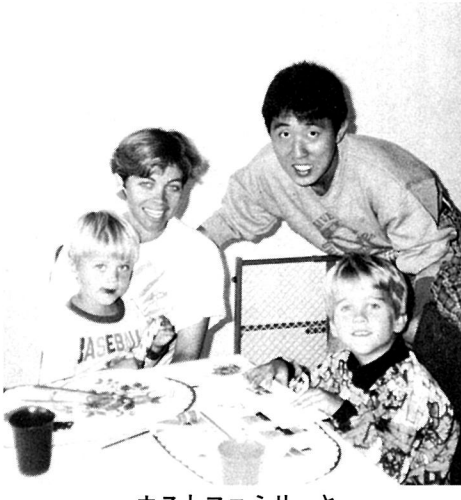
最後に、一月という短い間だったが、辞書を片手に奮闘した日々は得るに得難い経験だつたと思う。

☆ ☆ ☆

親切だつた
ホストファミリー
電気電子工学科三年 高瀬 浩 史

今年の夏、カナダ特別英語研修に参加した。八月一日から八月二十七日までの二十七日間と短いものだったが、毎日がとても充実していて、最高の夏休みが過ごせたと思ひている。

まず、カナダに住んでみて感じたのは、夏なのにとても涼しく日本のように湿度が無く過ごしやすいことだ。それに、カナダでは夏の間とても日が長く午後九時頃まで明るいので、家に帰るのが遅くならないように時間にけつこう



ホストファミリーと

兄弟と住込のお手伝いさんがいた。それに犬と猫を飼っていた。家に着いてすぐ部屋に案内してもらったときに、『ここ三週間生活するんだあ!』と思ひとても感激したのを覚えている。その後、家族の名前はもちろんのこと、食事の時間や、バスルームの使い方など、その他細かいところまで、分かりやすく丁寧に教えてくれた。それに朝、家の鍵と家から大学までの地図や仕事の先電話番号の紙を持たされた。今思うと、まるで小学生のようだった。このようにして私のホームステイは始まつた。

食事についてだが、朝はコーンフレークなどのシリアルとトースト、それにコーヒーやミルク、ジュースといったものだった。また昼食には毎日サンドイッチを持たせてくれた。さて夕食だが、チキンやサーモンなどの魚類、それにポテトなどが多かった。ホストファミリーの民族によっては食事がかなり違つた。た。ライスも何度か食べたが、カリフォルニア米なので日本の御飯とは違いほろほろして

いてあまりおいしくなかつた。全体的に、味なども日本のも

のとはだいぶ違うので、食生活からも外国が体験できたと思ふ。また、今思えば日本食を作つてご馳走してあげればよかったと思ふ。

さて、肝心の英語についてだが私たちはフリティッシュコロンビア大学(UBC)で

大阪大学溶接工学研究所での一年間

外国人研究員との交流

宮 沢 肇



左・ハンセン氏、右・筆者

大阪大学溶接工学研究所の昭和六十三年度国内研修制度の適用を受けて、大阪大学溶接工学研究所第九部門（松縄 朗教授研究室）で一年間、「レーザ加工」に関する研究が、世界各国で行なわれるようになってきた。小生が実施した研究テーマは、そのような表面改質技術の応用物理学会でも発表の予定である。

小生はこれまでレーザ加工に関する研究を実施してきたが、研究対象は穴加工や切断加工に関するものが主体であった。その理由のひとつに、現在、産業界で実用化されている「レーザ加工」の分野は、前記加工と切断加工が大半を占め、従って、解決しなければならぬ（解決してほしい）問題点がはつきりしているという背景があった。一方、この数年間、例えば高密度エネルギーにより「あらゆる物質

感じたことをとりとめなく書いてみることにする。

研究室には二人の外国人共同研究員がいた。ひとりにはフランスのマークシー研究所（CGEグループの研究センター）から来ている独身女性（工学博士、もちろん美人）。彼女はレーザ（化学蒸着法）に関する研究に従事していた。日本語が達者で、当用・常用漢字程度であれば読み書きに不自由せず、柔道・合気道の有段者で、そのうえ飛行機の操縦もOK。このように素晴らしい彼女にも実験を主体とした研究活動については悩みがあり、例えば、業者との細部の打ち合わせの時などは、必ずしも十分な意思疎通ができず、一緒に研究している院生の助けはあるものの、苦勞していたようである。

もうひとり、デンマーク工科大学のオールセン博士（レーザ切断に関する研究で知られている）の研究員からの若手研究員ハンセン氏。彼は小生とほとんど同じ時期に松縄研究室に来て、六ヶ月間、窒化チタン皮膜の生成に関する研究に従事した。彼は日本語は全く話せず、又、勉強する意欲もないと明言していた。難しい日本語を勉強するだけの時間とエネルギーがあるならば、それを研究の為に使いたいというわけである。

二人の外国人と接して感じたことは、外国で研究活動をする場合、特に「実験を主体とする研究」を行なうとすると、言葉の壁が非常に高い。英語で話さなければならぬ状態におかれてしまったのである。正直なところ、一日が終わるとグッタリしてしまつた（長期間の海外研修をされた先生方の御苦労が解るような気がした）。そんな生活に慣れるまで一ヵ月位かかつたと思う。大阪大学で英会話の勉強までするとは、夢にも思つていなかった、というのが正直なところであった。

二人の外国人と接して感じたことは、外国で研究活動をする場合、特に「実験を主体とする研究」を行なうとすると、言葉の壁が非常に高い。英語で話さなければならぬ状態におかれてしまったのである。正直なところ、一日が終わるとグッタリしてしまつた（長期間の海外研修をされた先生方の御苦労が解るような気がした）。そんな生活に慣れるまで一ヵ月位かかつたと思う。大阪大学で英会話の勉強までするとは、夢にも思つていなかった、というのが正直なところであった。

華中理工大学より 鍾偉芳副校長等来学

華中理工大学より鍾偉芳副校長を団長に、王筠教授、黄一夫教授、技術中心副主任ら一行三名が九月十八日日本を訪れた。

本学と華中理工大学の間には昭和五十八年以来「学術交流に関する取り決め」が結ばれており、昨年十月大川学長一行が訪中し、その再調印が行われたのは記憶に新しい。今回の一行の来学目的は、この再調印された「取り決め」に基づき、共同研究および研究員の派遣に関する業務レベルの話し合いのためである。

来学した一行のうち、鍾偉芳副校長および黄一夫教授、技術中心副主任による特別講演が、それぞれ「華中理工大学における教育改革と発展」「ロボットの研究」と題して、九月十九日学友会館で行われた。その後、一行は名古屋大学・大阪大学・広島大学をそれぞれ、さむに姉妹都市である大分市および長崎市を敬訪問し、十月十日今回の日程を終え、帰国した。

二人の外国人と接して感じたことは、外国で研究活動をする場合、特に「実験を主体とする研究」を行なうとすると、言葉の壁が非常に高い。英語で話さなければならぬ状態におかれてしまったのである。正直なところ、一日が終わるとグッタリしてしまつた（長期間の海外研修をされた先生方の御苦労が解るような気がした）。そんな生活に慣れるまで一ヵ月位かかつたと思う。大阪大学で英会話の勉強までするとは、夢にも思つていなかった、というのが正直なところであった。

人事

異動（十月一日付）

▽教養科主任
矢島幸雄教授（やしま・ゆきお）再任

▽電気電子工学科主任
八田達教授（はつた・とおる）再任

▽建築学科主任
北後寿（ほくご・ひさし）新任

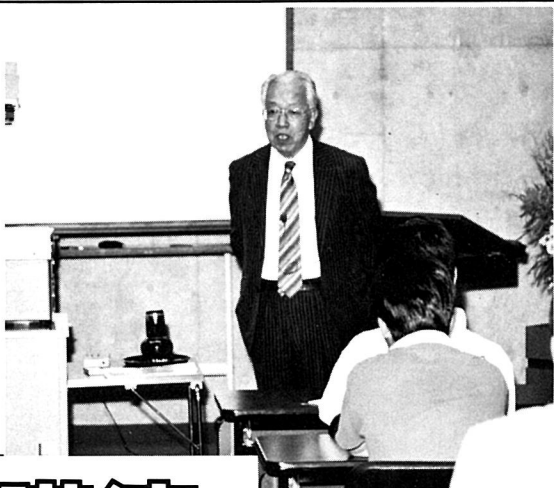
（テーマ）IC産業の現状と未来

（講師）鈴木政男氏
元九州日本電気代表取締役会長
平成元年六月三十日 午後三時

（日時）平成元年六月三十日 午後三時

（場所）本学学友会館会議室

（対象）院生、学部四年生、教職員



鈴木 政男氏

特別講演



林 由郎プロ

（テーマ）講演と実践指導
（講師）林 由郎プロ
日本プロゴルフ協会副会長
平成元年七月八日 午後四時三十分

（テーマ）真正 大人のおもちゃ（副題 想像工学）
（講師）中田 孝氏
日本学士院会員・東京工業大学名誉教授
平成元年十月十九日 午後一時三十分



中田 孝氏



加藤 一郎氏

研究室では(36) 流体工学研究室

空気と水の存在は、人間が生活するための大前提である。空気は、普段はその存在が意識されないくらい普遍的で、安定して存在している。一方、水も雨として自然から供給され、都市化以前は自由に利用されていた。

しかし水については、文化が発展し、文明が進み、都市が生長するにつれて、その供給と排出が問題となり、治水は生活発展させるために重要な問題となってきた。また一方、空気も熱機関の発明以降は、エネルギー発生のための酸化剤として、また、生活環境を維持するための清浄空気として意識され、計画して使用されるようになって来ている。

文明の発展と共に人間は、空気と水を意識して利用せざるをえなくなり、水理学・水力学・空気力学・流体力学などが発展してきた。これらは水や空気などの流体の運動を

ン用ブーストポンプなど高圧大型のポンプが多く使われている。最も大型のものとしては発電用の水車、またはポンプ水車がある。

自動車について見ても、空気関係としてはラジエーター冷却用ファン・ターボチャージャー用圧縮機とタービン・エアコン用圧縮機がある。吸気系統や排気系統も関係がある。また、水関係は冷却系統と循環ポンプが存在する。このような目で見てみると、飛行機・列車・船・宇宙船など、人間が存在するところには必ず流体機械が、環境維持およびエネルギー変換・媒体供給用に使われている。

このように流体工学を利用した装置機械は、工学界で広く使用されているが、流体工学研究室では、主にガスタービンなどの要素となっている高速流体機械に関する研究を行っている。設備の関係上、小型の流体機械を用いて研究を行っている。ターボチャージャー用遠心圧縮機やラジアルタービンは小型のため翼端隙間が、大きく性能に影響するので、その現象の理解と定量化を計るための研究を進めると共に、運転中の隙間の状況を測測するための計測装置

六十二年度決算 平成元年度予算

報 告

第二十二期決算・第二十三期予算が公認会計士および法人監事の監査を受け、法人理事会ならびに評議員会で承認決定されました。ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力を、お願いする次第です。

本年度は、大学院工学研究科博士課程(後期)電気工学専攻が設置認可を受け、すでに設置されている機械工学専攻および建築学専攻とを合わせて、すべての学科から大学院博士課程への進学の道が開け、本学にとって記念すべき年となりました。

さて、私学経営の収入面においての大きな支えになっている国庫補助金および経常経費補助金は、年々減額してきており、所属収入に占める割合も、昭和五十五年度の二五・三%をピークとして、現在は二一・一%まで下降しています。

また、新たに設けられた消費税は、非課税扱いの授業料、等学費収入についてもその支

出に際しては課税対象となり、この影響は大きなものがあります。さらに、数年後は就学人口が減少する等、私学の経営にとって非常な困難が予想されます。

このような、厳しい状況下にはありますが、大学本来の目的である教育と研究の内容充実を怠らず、常に点検改善を怠らず、建学の精神に沿って発展を続けてゆきたいと考えております。

六十二年度決算について
年度内の、全ての収支を示す資金収支計算書と、期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表を、別紙のように公表いたします。

教育と研究を支える教育研究経費の確保により、研究活動が一段と活発化しており、その影響が教育に反映されています。また、施設改善および設備の充実配慮した予算の執行が行われました。以下、当年購入された主な教育研究用機器備品を紹介します。

※設備関係支出
光電画像素子評価装置・情報処理教育支援システム・高温超伝導薄膜研究装置・硬質薄膜作成装置・電子線表面形態解析装置・ダイヤモンド合成分析評価システム・表面粗さ・半径・形状エラー測定システム・ラム型万能フライス盤・高圧貫流ボイラー・走査型電子顕微鏡装置・細穴放電加工機

一億八千七百万円を予算化し、各学科・各センターにおいて購入計画を進めています。

◆主な施設計画
本年度は下記の工事を予定していますが、建設請負会社の受注量が多く繁忙を究めていて、発注時期等の選定に苦慮しています。

「資料館の新築」
近年資料の計画収集と活用に必要な資料が増加して来ましたが、成績原簿等永久保存の必要資料が増加して来ましたが、このような事情に対処できる資料棟の新築を、計画しています。

「実験研究棟の改築」
鉄筋コンクリート造二階建一、〇五七㎡の改築を計画しています。

☆ ☆ ☆
その他の設備計画としては、学生実験・演習用設備として、

●寄稿

学習単位の査定はおかしくはないか?

町山 忠弘

本学は単位制と学年制とを併用している。しかし基本的に単位制であって、卒業の要件は取得単位数規定である。

その学習単位数の査定がおかしくはないかと云う疑問がある。すなわち、実験実習科目は通年で学習単位は二単位である。演習もこれに準ずる。講義科目は通年で四単位が与えられる。

処が実験実習科目は週二時限、講義科目は週一時限の拘束をうけ、前者では毎週のようにレポートを提出することが義務付けられている。学習単位数の査定が実際の学習拘束時間と見合っていないのではないのか。

いくつかの大学で、学生に質問してみた処、確かにおかしいと云う学生がほとんどであった。若い教員の

中にも学生と同様の判断が少なかつた。

昨今、学生の学習状況を観ると、確かにこの学習単位数の査定は実状に適合していない。学生が机に向う時間は宿題(実験実習科目のレポート書きが大部分を占めている)を消化する以外にほとんどなく、例外として期末試験直前の一晩だけである。学習単位数の査定が実生にそって実状をよく知っている若い教員の中にも、学習拘束と学習単位との不適合感が存在することは当然のことであろう。

この不適合の是正はどの

ようにして行なうか。「世界最低」と云われる日本の大学教育に手をつけるのであれば、まずこの辺りから始めてよいように思う。講義科目の学習単位数を減じ、科目数を多くすることも、多彩に展開してしまつた技術への対応として一つの方法であろうか。

現在の大学が「新制大学」として発足した当時のとりきめを思い出しておくことも必要である。例えば、講義科目について「二時間の授業に対して、二時間の学習と二時間の復習とが必要である」としてあった。二

昭和63年度資金収支計算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入	2,076,223,000	3,339,482,000	人件費支出	666,169,748	1,813,770,713
授業料収入	202,400,000		教育研究費支出	68,713,831	
実験研究費	292,058,000		施設管理費支出	688,035,013	
施設設備拡充費	768,801,000		関係費支出	169,008,255	
手数料収入	54,228,960	2,419,847,156	貸付金収入	122,261,240	220,252,229
寄付金収入	122,261,240		貸付金収入	643,870,000	
国庫補助金収入	643,870,000		貸付金収入	197,026,314	
国庫補助金収入	30,240,000		貸付金収入	3,871,450	
国庫補助金収入	3,871,450		貸付金収入	67,231,538	
国庫補助金収入	67,231,538		貸付金収入	1,359,351,000	
国庫補助金収入	48,463,546		貸付金収入	17,376,936	
国庫補助金収入	17,376,936		貸付金収入	Δ1,220,517,100	
国庫補助金収入	Δ1,220,517,100		貸付金収入	Δ123,977,960	
国庫補助金収入	Δ123,977,960		貸付金収入		
前期繰越資金		2,419,847,156	前期繰越資金		2,419,847,156
収入の部合計		6,958,755,080	支出の部合計		6,958,755,080

貸借対照表

平成元年3月31日現在

科 目	金額	科 目	金額
資産	8,104,354,699	負債	1,843,906,018
固定資産		固定負債	
土地建物		長期借入金	
構築物		退職給付引当金	
機械器具		流動負債	
その他機器備品		短期借入金	
図書		未払金	
車輦		未払金	
建設仮勘定		未払金	
その他固定資産		未払金	
電話加入権	1,573,594	基本金の部	11,448,503,410
有価証券	31,050,000	基本金	
退職給付引当金	470,164,757	消費収支差額の部	
育英基金引当金	206,420,934	消費支出超過額	
施設更新引当金	1,140,760,000		
基本金引当金	221,215,932		
国際交流基金引当金	23,478,793		
減価償却引当金	100,000,000		
その他固定資産	5,977,700		
流動資産	3,342,547,600		
現金	3,190,580,075		
預金	123,977,960		
未払金	27,989,565		
合計	13,647,544,009	合計	13,647,544,009

平成元年度資金収支予算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入	2,150,760,000	3,402,301,000	人件費支出	763,759,217	1,929,908,747
授業料収入	198,000,000		教育研究費支出	340,000,000	
実験研究費	307,045,000		施設管理費支出	729,532,455	
施設設備拡充費	746,496,000		関係費支出	166,137,500	
手数料収入	54,300,000	3,190,580,075	貸付金収入	122,261,240	220,252,229
寄付金収入	48,300,000		貸付金収入	643,870,000	
国庫補助金収入	515,794,000		貸付金収入	197,026,314	
国庫補助金収入	126,000,000		貸付金収入	3,871,450	
国庫補助金収入	2,500,000		貸付金収入	67,231,538	
国庫補助金収入			貸付金収入	1,359,351,000	
国庫補助金収入			貸付金収入	17,376,936	
国庫補助金収入			貸付金収入	Δ1,220,517,100	
国庫補助金収入			貸付金収入	Δ123,977,960	
国庫補助金収入			貸付金収入		
前期繰越資金		3,190,580,075	前期繰越資金		3,190,580,075
収入の部合計		7,674,265,100	支出の部合計		7,674,265,100